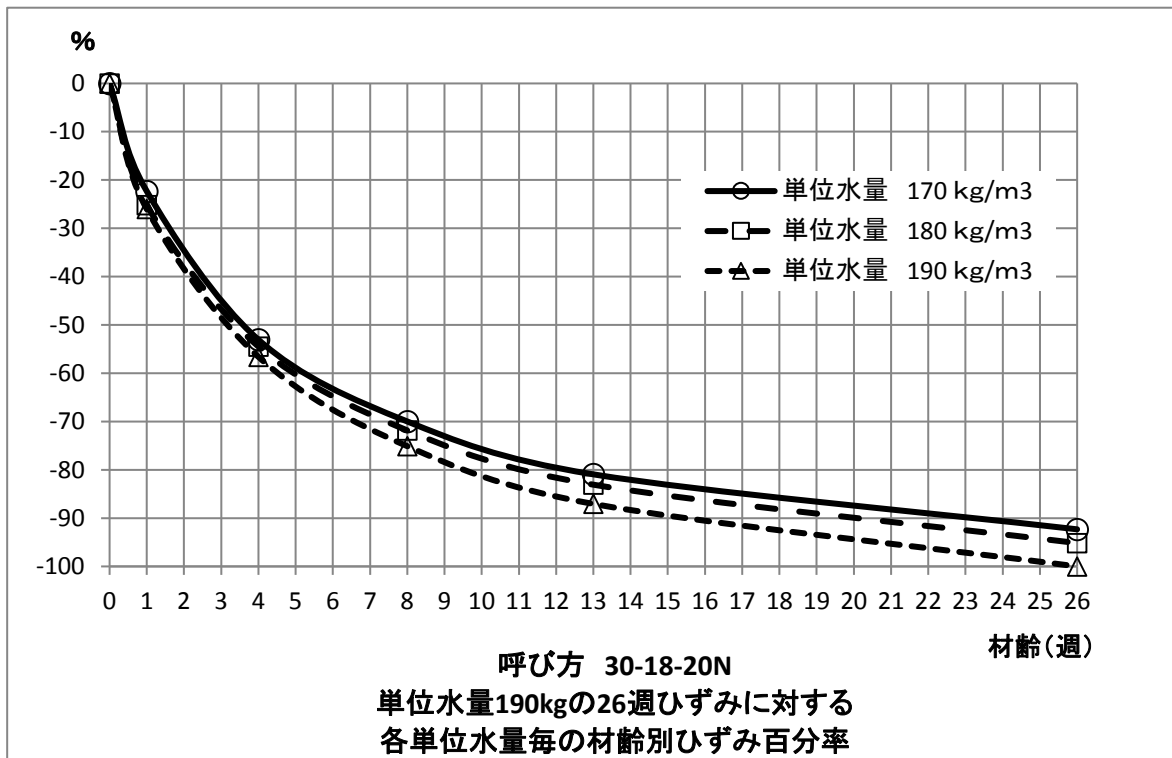


## 単位水量の多少がコンクリートの収縮ひずみに及ぼす影響について

過去から、単位水量の多少がコンクリートの収縮ひずみに影響を及ぼすことは知られており、平成26年度は、この程度の確認のため実験を行いました。

概要は、組合員の一工場の原材料を用い、呼び方30-18-20Nの配合の単位水量を170、180、190(kg)の3水準に設定し、混和剤の使用量を変えてスランプと空気量が近似するように練り上げ、10×10×40cmの供試体を作成し、JIS A 1129-2 コンタクトゲージ法により各材齢毎に長さ変化を測定するという方法で実施しました。

以下のグラフは、測定された個々の収縮ひずみ値を単位水量190kgの26週ひずみ値で除した、つまり、各測定値のひずみを単位水量190kgの26週ひずみに対する百分率で表したグラフです。



単位水量の多少がコンクリートのひずみに及ぼす影響

私どもの実験では、呼び方30-18-20N・単位水量180kg程度のコンクリートの単位水量が20kg異なれば、26週の収縮ひずみは8%程度変化するという結果になりました。

奈良県生コンクリート協同組合 技術委員会